

第7回木更津市立小中学校適正規模等審議会会議録

○開催日時：平成22年5月27日（水）

午後1時30分から午後2時50分まで

○開催場所：木更津市役所6階委員会室

○出席者氏名

審議会委員：佐伯康子、内田慎一郎、青柳敬子、石井徳亮、坂井麻貴子、
豊田雅之、池田利一、金子邦夫、山口嘉男、加藤淳、石渡宏

教育委員会：初谷教育長、鶴岡教育部長、石井教育部次長

（教育総務課）宮澤副課長、齊藤副主幹

（事務局 学校教育課）高澤参事、浪久副課長、安見主査、
鶴岡主査

○議題等及び公開非公開の別

議事 (1)今年度の審議予定について：公開

(2)適正配置に向けての学校ごとの方策について：公開

1 開会（佐伯会長）

ただいまより第7回木更津市立小中学校適正規模等審議会を開催します。

2 会長あいさつ

昨年度末には、木更津市における適正規模と、市街地・新市街地の18校の適正配置についての審議を終えて、中間答申を行いました。

今年度は、昨年度審議の対象でなかった13校について、適正配置を考えていくこととなります。

本年もよろしく申し上げます。

3 教育長あいさつ

これまでに6回、当初予定よりも回数を重ねて慎重にご審議をいただき、昨年度末に中間答申をいただきました。

答申の内容については、教育委員会はもちろん、庁内外からも大変評価が高く、難しい問題をよく整理し答申にまとめていただいたという声を多く耳にしています。

これを受けまして、今年5月には、答申をどういうふうの基本方針として定めていくか、事業として先に進めていくかということについて庁内で論議する庁内検討委員会もスタートして、すでに2回会議を開いています。

今年度は、13校について昨年と同様にご審議をいただき、中間答申とあわせて、最終答申というかたちでいただければと考えています。

よろしく申し上げます。

— 事務局職員等紹介 —

4月1日付け人事異動に伴う異動者を紹介

— 資料確認 —

- ・平成22年度審議予定（案）
- ・平成22年5月1日現在 小学校学年別児童数学級数一覧表
- ・平成22年5月1日現在 中学校学年別生徒数学級数一覧表
- ・規模、施設、配置等の現状（22年度児童生徒数、学級数更新）
- ・各学校における課題等

4 議 事

佐伯会長 それでは、本日の議題に入ります。

議題（1）「今年度の審議予定について」です。

事務局に案を作らせましたので、まず説明をお願いします。

浪久副課長 今年度は審議会を4回開催したいということで了承をいただいています。従いまして、平成23年2月の最終答申を目途にスケジュール案を作成しました。

本日の審議会では、岩根中学校区、岩根西中学校区についての審議をいただきたいと考えています。

第8回の審議会では、鎌足、金田、中郷中学校区についての審議をいただきたいと思えます。

第9回の審議会では、富来田中学校区について審議をいただいた後、最終答申内容の検討をお願いしたいと考えています。

第10回の審議会で、最終の答申案についてご検討いただき、答申をお願いしたいと考えています。

佐伯会長 事務局の説明に質問やご意見はありますか。

内田委員 要望ですが、日程案を見ると月末が多く、出にくい状況のため、できれば月末を避けてもらいたいと思えます。

石渡委員 教育長のお話に対しての質問なのですが、ここで審議したことについて、どのようにおろしていくかということについて、例えば木更津第二中学校の移転などを、突如として教育委員会でこういうふうになりましたというように出すのか、住民会議などにおろしていったら進めていくのか、手順はどのようになるのでしょうか。

初谷教育長 例えば、学校を新しく造るとか、分離するとかいう問題よりはるか前の、学校の改修や建て替えであっても、学校の先生方をはじめ、保護者や地域の方々にご説明をしてご意見を伺うということはその都度しています。ですから、今度の問題もそういう段階になれば手順を踏んで、多くの方々のご理解をいただきながら進めなければならないと考えています。

今庁内で進めているのは、審議会を出していただいた答申を事業に移していく場合、財政面など様々な問題や、他の諸施策との関係、次の総合計画との関係もありますので、まず庁内できちんと論議をして、方針を定めて、それをもって多くの方の理解をいただくというステップを考えています。

佐伯会長 日程については、内田委員の要望をできるだけとり入れさせていただく方向で、予定としてはこれでよろしいですか。

— 委員了承 —

佐伯会長 それでは、議題2「適正配置にむけて学校ごとの方策について」に入ります。

昨年同様、中学校区ごとに、学校別にみていきたいと思います。

まず、岩根中学校です。

現状と課題をもう一度整理したいと思います。

教室は27年度までは足りる見込みで、敷地は十分。通学距離は学区の全域が片道3.5キロメートル以内、生徒数の推移はほぼ横ばいと予測されます。学校の位置は学区の北東部。高柳小学校の児童が全員岩根中学校に進学するということが実現されています。一つの小学校から一つの中学校へということは実現されています。小規模校であるということが課題といえるかと思いますが、何かご意見ありますか。

石渡委員 岩根中学校に勤務していたことがあったのですが、施設関係で、岩根西中と別れる前に使っていた一棟が生徒会室やPTA室、多目的室などのほか、倉庫のようなかたちで使われていた教室もあり、もったいないと感じていました。

生徒数がそんなに増えていないので、如何ともし難いと思いますが、道路に面したほうの教室がほとんど使われていないというのは残念だと思います。

佐伯会長 小規模校であって、施設のにはとても余裕があるということですね。岩根西中も小規模校ですので、両校の兼ね合いも考えながら検討していきたいと思います。

岩根中があって、その後岩根西中が分離という形でできたのですか。

石渡委員 はい。岩根中の学区が広範囲にわたっていて、岩根西中がないときは、自衛隊のほうから通学してきていました。

内田委員 地図でみるといちばん端のほうにあります。中学校の生徒は良いと思いますが、小学生については、学区の端から端まで通学している不便さはないのでしょうか。

青柳委員 私も居たことがあるのですが、学区の南のほうは水田地帯が多く、通学距離が長くて困ったという話は当時は聞きませんでした。

加藤委員 以前この岩根地区は小学校が岩根小学校1校、中学校が岩根中学校1

校でした。その後人口の増加に伴って、高柳小学校ができ、岩根西中学校ができたという経緯があります。

岩根中学校については、今の規模でみると小規模で、以前の人数からするとさみしい気がしますが、生徒数の現状や今後の推移のデータをみると、特に策を講じるのは難しい状況ではないかと思えます。

岩根西中学校のほうは、生徒が減少傾向にあり、一つの中学校の規模として、はたして適切かどうか、今後の推移によっては、岩根地区全体で考えるときが来るかもしれないと感じます。

ただし、現状だけを見ると配置を変更するのは難しい状況ではないかと思えます。

佐伯会長 岩根西中学校のことを考えると、将来統合を検討する必要があるけれども、現状はこのままでよいのではないかということですね。

岩根西中学校は小規模校です。生徒数は減少傾向、敷地面積は十分で、通学距離は片道3キロ以内で、学校は学区のほぼ中心部に位置しています。建物の敷地と運動場に借用地があり、学校前の県道は交通量が多いという課題があります。一つの小学校から一つの中学校にということを見ると、岩根小学校の児童が全員岩根西中学校に進学しているので、これは実現されています。

将来統合を検討する必要があるということで、岩根中学校と岩根西中学校はどちらも小規模校ですが、もし統合した場合はどのようなになるか、事務局シミュレーションしてみてください。

— シミュレーションデータ配付 —

安見主査 岩根中学校と岩根西中学校を統合した場合の、生徒数・学級数を現在0歳児が中学校に入学する平成34年度まででみてみました。

表は年度ごとの新入生の生徒数・学級数、その年度の学校全体の学級数と生徒数を示してあります。

1の表は現行の岩根中学校です。34年度までをみても、各学年の生徒数は70人から90人、学級数でいうと1学年2、3学級の学校です。1学年3学級を越える見込みはなく、34年度まで9学級以内の小規模で推移するものと見込まれます。

2の表は現行の岩根西中学校です。岩根中学校に比べると、1学年50人から70人と生徒数は少なく、34年度まで各学年2学級、全体で6学級の小規模で推移するものと思われます。

この2校を統合した場合が3の表です。統合した中学校の22年度全体の学級数は14学級、生徒数は466人、34年度までをみても、生徒数の大幅な動きはなく、1学年人数は120人から160人です。

弾力的運用で、各学年4学級から5学級で34年度まで推移する見込みで、全体で12学級から14学級の適正規模を維持する中学校になる

と思われます。

統合した場合、適正規模になりますが、受け入れる施設面はどうかということで、就学可能学級数をみると、岩根中学校は19、岩根西中学校は10となっています。

岩根中学校に統合した場合は、特別支援学級数を考慮しても教室数は足りません。岩根西中学校に統合すると、普通学級だけでも教室数は不足します。

また、通学距離については、どちらの学校に統合した場合でも、最長4キロメートル以内で、国が基準とする6キロメートル以内にはおさまっています。

佐伯会長 事務局のシミュレーションを踏まえて、何かご意見はありますか。

石井委員 昨年PTAで、CAP、子どもへの暴力防止プロジェクトというものを各学校でやっていただいて、子ども、保護者、先生それぞれからアンケートをとらせていただきました。具体的にどの学校がということは言えませんが、大変先生が苦勞されている学校があると聞いています。ですから、単純に数字だけで判断するのではなく、大変な学校では人数的に余裕があったほうがよいのではないかという気もしているのです。

例えば、高柳小学校が18学級で、そのまま岩根中学校に進学して1学年3クラス、数字上でいえば小規模校というかたちになっていますが、適正規模の高柳小学校からそのまま岩根中学校に行っているわけで、総体の人数が少ないから小規模校になっているということで、それだけで判断するのは難しいと思います。

佐伯会長 数字上に現れてきているもの以外の色々な要素も取り上げて、多角的に判断する必要があるのではないかということですね。

石渡委員 石井委員の言われたことは重要だと思います。人数も然ることながら、中の児童生徒はどうなのか、教育効果ということを考えるのは非常に重要だと考えます。

岩根西中学校ができたとき、岩根西中学校は中学校の新設校として、理科系の特色のある学校とか、意図を持って作られたと思います。その伝統は脈々と続いているように思います。

また、通学については、岩根中の前の道は非常に狭く、通学路は紆余曲折して複雑で、距離としては可能であっても、岩根西中の生徒が岩根中に通うというのは非常に困難ではないかと思います。だからこそ、分離して新設したのではないかと思います。

青柳委員 私も同感です。せっかく分離して、学区の保護者や地域の方々が、精神的にも物理的にも支援するような組織がありますし、PTA関係も、分離以前のまとまりも地域としてあるし、分かれた後のまとまりも大変有効に子どもたちに働いていると思います。こういったバックアップがよくできていますので、子どもたちの人数の推移が、ずっと同じくらいということであれば、現状維持でよろしいのではないかと思います。

加藤委員 小学校の段階において、通学距離は十分考慮する必要があると思いますが、中学校の段階では、自転車通学などが可能になると思います。

私はこの地域の区長会のほうにも関わってしまっていて、いまだにこの岩根地区は、岩根西地区と二つで一緒に区長会をやっています。以前のつながり、横のつながりがこの岩根の地区にはありますので、学校は二つに分かれています。生活圏、文化圏という面では、共通するものがあります。ですから中学校区が一緒になるにしても、まだなりやすい状況かなという地域の印象はあります。

それから、岩根西地区においては、今後隣の金田地区の都市計画がどうなってくるかによって、影響がでてくる可能性があるかと考えます。

中学校段階については、将来的に一緒になる可能性を秘めているのではないかと思います。

金子委員 加藤委員が触れましたが、金田地区はどんどん変わってきているように感じます。岩根地区は、岩根西公民館の周りを少し歩くと、田園に囲まれて、教育環境は素晴らしいと感じました。ただ、今後金田の開発が進んでいくことを考えると、岩根地区もどうなっていくのか、長いスパンでみると影響がでてくるのではないかと思います。

内田委員 加藤委員とほぼ同じなのですが、小学校のお子さんはある程度学校が近くにあるほうが良く、中学校は多少離れても良いという考えで、将来検討をしたいと思います。ただ、岩根中学校はまだ耐震工事の実施予定がなく、岩根西中学校はもう耐震の基準を満たしているとうこと、一方岩根西中学校だと教室が不足し、岩根中学校ならば足りるということなので、なかなか難しいのですが、耐震のところまでも考慮に入れたうえで検討できればと思います。

佐伯会長 岩根中学校と岩根西中学校については、現時点ではともかくとして、将来にわたっては、統合が考えられるということですね。そして、その際は単なる数字上の判断ではなく、教育効果に視点を当てて検討する必要があるという意見としたいと思います。

では、岩根小学校について、現状と課題の整理をしたいと思います。

岩根小学校は、教室は27年度までは足りる、敷地は十分、通学距離は学区全域が3キロ以内、将来的な児童数の展望は横ばいということですね。学校は学区の東端に位置していて、運動場に借用地があります。適正規模校です。

岩根小学校は、伝統のある学校のような感じですね。特に問題となるところはないでしょうか。

青柳委員 中学校のところで話したとおり、保護者や地域住民の協力など、学校に対するバックアップの体制がよくとれていますので、現状維持がよいのではないかと思います。

佐伯会長 では、岩根小学校については、現状維持としたいと思います。

次に、高柳小学校ですが、教室は27年度までは足りる、敷地面積は

十分、通学距離は学区全域が片道3.5キロ以内、児童数の展望はほぼ横ばいであって、学校は学区の北東部に位置しています。適正規模校ですね。

石井委員 高柳小学校、岩根小学校とも余裕学級数がとても多いのですが、建設当時は自衛隊関係の方々を見込んでいたということでしょうか。

高澤参事 そこまでは加味していなかったと思います。例えば高柳小は昭和55年の児童数が1,400人近く、学級数も34学級でしたので、その頃かなり地域の人口が増えて、それに伴う児童数の増加に対応してきたものだと思います。

佐伯会長 高柳小学校については、適正規模であって、岩根小学校同様地域とのつながりもよくできていることもありますので、現状維持としたいと思います。

加藤委員 昨年度は新市街地のほうを検討して中間答申をしましたが、今年度は、今回が岩根地区、次回以降は鎌足、金田、中郷、富来田ということで、比較的古いまち、落ち着いたところの適正規模、適正配置をみていくということになります。そうすると、今年度と昨年度では、適正規模・適正配置の観点というか、基準がおのずと変わってくると思うのです。市のトータルで考える必要ももちろんあると思いますが、今年度の適正規模・適正配置の考え方というものを確認しておきたいと思います。

高澤参事 昨年度中間答申はいただきましたが、今年度の審議の中で、さきに審議をした市街地・新市街地の学校についても関わりがでてくるところがあれば、それについて触れていくということになると思っています。

佐伯会長 適正規模については考え方は同じですね。今年度の審議のなかで必要があれば、その都度中間答申で触れた学校でももう1度検討するということですが、適正規模、適正配置の考え方は昨年度と同じで進めていくというかたちです。

豊田委員 適正配置とずれるかもしれませんが、今日の岩根小学校、高柳小学校では、二桁の余裕教室があるという状況で、学童保育や地域の子育てスペースといったかたちで学校を開放することができれば、施設の有効活用につながるのではないかと思いますので、そういった検討もできればと思います。

青柳委員 高柳小では学童保育で学校施設を使っていると思います。

今日審議をした岩根、高柳地区については、教育を支援するPTAや地域住民のまとまりがよく、温かくて協力的なものがあると感じていたのですが、二小や請西小などは、公民館活動も含めて、地域住民と学校の間で、複雑なものがあるようです。地域との関わりにも心を配ることが大事だと思います。

佐伯会長 今まで検討してきた学校であっても、教育支援体制や地域との関わりや複雑さからくる問題などが考えられてきた場合には、もう一度それに触れながら、この審議会の中で取り上げて検討していくということです。

ね。

金子委員 個人的な要望ですが、自分の住む地域の周りの学校については環境が良く分かるのですけれども、他の学校については地図や資料で見ただけでなく、実際に子どもたちの学び舎を見てみたいという思いがしています。

学校の運営に支障をきたすような訪問ではないかたちで、今年度とりあげる学校について見られればと思います。

佐伯会長 事務局で効率よくまわるような手はずを検討してみてください。

鶴岡部長 ごもっともなお話だと思えます。

検討させていただきます。

教育長から、場合によっては、会場を検討する学校に移してもというお話もありましたので、委員のご希望があれば、関係する学校を全て見るということを含めて、調整させていただきたいと思えます。

佐伯会長 よろしくお願ひします。

5 その他

浪久副課長 今年度、木更津市立小中学校適正規模等庁内検討委員会を設置しましたので報告します。この検討委員会は、本審議会の中間答申を受けて、教育委員会の基本方針を策定するための委員会です。本年度5回程度の会議を開催して検討を重ねる予定です。すでに5月11日と20日の2回会議を開催して検討を始めています。また、今後審議会からの最終答申をいただいた後に、その内容を踏まえて更に検討を重ねたうえで、基本方針を策定したいと考えています。

6 閉会

佐伯会長 本日はありがとうございました。

次回は8月を予定しています。日程についてはもう一度検討してご連絡をします。

以上をもちまして、第7回木更津市立小中学校適正規模等審議会の閉会いたします。

以上

上記会議録を証するため下記署名する。

平成22年6月25日

木更津市立小中学校適正規模等審議会会長 《会長署名》